

(様式6)

大山 祐輝 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Muscle activity of the vastus medialis obliquus during squat motion
after static stretching of the tensor fasciae latae
(大腿筋膜張筋のスタティックストレッチ後のスクワット動作における
内側広筋斜走線維の筋活動)

The Journal of Physical Therapy Science (in press)
Yuki Ohyama, Takehiko Yamaji, Ena Sato, Hideomi Watanabe

論文の要旨及び判定理由

本研究は、膝蓋大腿関節機能に関与する膝蓋骨周囲筋の筋柔軟性が、スクワット動作時の筋活動に与える影響を検討したものである。健常成人男性19名を対象に、大腿筋膜張筋(TFL)への静的ストレッチ前後のスクワット動作時における大腿直筋(RF)、外側広筋(VL)及び内側広筋斜走線維(VMO)の筋活動を表面筋電図にて比較した。その結果、TFLのストレッチ後には、VLに対するVMOの筋活動開始時間が有意に減少し、VMOの筋活動量及びVMO/VL比が有意に増加した。これらの結果から、TFLへのストレッチにより、VMOの筋活動開始時期が早まること、またVMOの筋活動量が拮抗するVLに対して増加することで、膝関節屈曲初期に生じる膝蓋骨外側変位を抑制することが明らかとなった。以上より、本研究は膝蓋大腿関節障害に対する予防ならびに理学療法プログラムの再構築に有益な研究であると認められ、博士(保健学)の学位に値するものと判定した。

(令和2年2月5日)

審査委員

主査	群馬大学大学院教授 リハビリテーション学講座	坂本 雅 昭	印
副査	群馬大学大学院教授 リハビリテーション学講座	白田 滋	印
副査	群馬大学大学院教授 リハビリテーション学講座	李 範 爽	印

参考論文

なし